

## 「大江川緑地の役割」

### 5 班（酒造班）

学籍番号	氏 名
C08021	上井戸 真奈
C08022	木村 薫
C08023	清田 悟史
C08025	畔柳 圭佑

アドバイザー教員：舟渡教授・嶋田教授

## 目 次

	ページ
1 . はじめに .....	1
2 . 調査内容と調査方法について .....	1
2-1 インターネット調査 .....	1
2-2 現地調査 .....	1
2-3 南土木事務所への訪問 .....	1
2-4 アンケート調査 .....	1
3 . インターネット調査 .....	1
3-1 概要 .....	1
3-2 歴史 .....	2
4 . 現地調査 .....	3
5 . 南土木事務所へ訪問 .....	4
5-1 大江川緑地の管理状況について .....	4
5-2 利用者からの苦情と対策 .....	4
6 . アンケート調査 .....	5
7 . まとめ .....	6
8 . 参考文献 .....	6
9 . 謝辞 .....	7
10 . 感想 , 各自の貢献内容 .....	8
C08121 上井戸真奈 .....	8
C08022 木村 薫 .....	8
C08023 清田悟史 .....	9
C08025 畔柳圭佑 .....	10

## 1 .はじめに

今回の調査は大江川緑地の公園としての役割を見出す調査である。また周りに住む地域住民にとっての役割を考えその中で出た苦情や問題点を班員、アドバイザー教員と議論を重ねて行き改善策を考えていきました。

## 2 . 調査内容と調査方法について

調査方法についての分担

### 2-1 インターネット調査

インターネットの検索サイトなどを利用して大江川緑地の歴史や造られた理由、どのように利用されているのかを調べました。

### 2-2 現地調査

実際に大江川緑地に行きどんな人が利用しているのか、どのような利用がされているのか、インターネットで調べたことと比較し管理が行き渡っているかなどの管理状況を調べました。

### 2-3 南土木事務所への訪問

管理を行っている南土木呼続分所を訪問し大江川緑地の管理方法や管理状況、住民からの苦情や対策について話を聞きに行きました。

### 2-4 アンケート調査

大江川緑地を利用している人に、利用頻度や利用内容、大江川緑地への不満点をアンケートで答えていただきました。

## 3 .インターネットによる調査結果

### 3-1 概要

名古屋市の南区を流れる大江川の上流側およそ半分を暗渠化した上に植樹して緑地としたもので、元塩町から港東橋下流までの約 1.8 km、11.5 ha の面積に 7 万本を越える木々が植えられているとともに公衆トイレ 3 ヶ所や水飲み場 7 ヶ所や遊具などが整備されています。



写真 1 憩いの場の花壇

大江川緑地は住宅地帯と工業地帯を隔てる緩衝緑地として整備されたもので、全体の約 8 割が緑で覆われています。植えられている樹木は次のとおりです。

- ・上中木 12400 本
- ・下木 63000 本
- ・地被 こうらい芝、クローバー、その他

名古屋市は地域別計画で、南区の課題のひとつとして、地域全体の花壇や街路などで、四季折々に香りや色彩が楽しめるハーブなどの植物を計画的、継続的に増やす活動を展開しているそうです。大江川緑地もその一環として、春夏秋冬いろいろなお花を楽しむことができます。

そして、”特色ある”公園の在る街として、大江川緑地周辺から、中江用水緑道を通じて笠寺公園につながる緑の軸を「大江・笠寺みどりの散歩道」とし、市民参加のもとで緑と水辺を生かした夢のある憩いの空間をめざしています。

春にはシダレザクラやソメイヨシノなど桜が咲き乱れ、緑地東側の噴水池では桜を見るのに絶好の場所になります。

### 3-2 歴史

今から約 300 年前、江戸時代初期にはこの地一帯は、葦の繁茂する沼沢であったと伝えられています。以来、長年にわたる新田の干拓、さらに明治末期から始まった名古屋港周辺の埋立事業によって、大江川としての原型が形成されました。

大江川の水源は天白区八事の下池を水源にし、天白区・瑞穂区・南区の丘陵地の水を集めて海へ注いでいます。農業用水路として流れ、東海道線西側の元塩町から工場資材を運ぶ輸送水路としても使用されていました。そして、昭和 34 年 9 月 26 日『伊勢湾台風』により大江川の堤防は決壊し、多数の尊い命を失いました。

その後、時代の流れとともに農地が宅地化され、その利用価値が減少し、さらには水質悪化によって河川環境が著しく破壊されました。

このため、名古屋市は災害および公害の防止を目的とし、緩衝緑地の機能を有する大江川環境整備事業を実施し、昭和 54 年、水と緑の憩いの場『大江川緑地』がつくられました。



写真 2 大江川緑地の木々

## 4．現地調査の結果

インターネットで調べたことをもとに実際に大江川緑地に足を運びました。そして自分たちが集めた資料と照らし合わせながら調査を行いました。まず一番最初に思ったことはインターネットで見た写真よりも公園が汚かったことです。写真では花や木々などが多くとてもきれいな公園というイメージが強いものばかりでした。しかし実際には、季節も関係していたと思いますが緑ばかりで、ただ花や木が放置してあるという印象でした。そのほかにもごみのポイ捨てがとても目立ちました。公園というのは景観を楽しんだりコミュニケーションをはぐくむ場所だと思っていましたが、大江川緑地の環境ではとても無理だと思いました。

また公園の管理のしかたにもいくつかの疑問を抱きました。樹木が放置されたことによって公園全体のイメージが暗くなっていました。放置されたことによって虫などが多くなったり夜になると光が届かないという問題点ができました。そのほかにも大江川緑地には池や水路があります。そこにゴミなどが捨てられておりそこから悪臭がしていました。これでは利用者が減ってしまいます。この調査結果をもとに管理局に訪問したり、アンケート調査を行いました。



写真3 密集した樹木達

## 5．南土木事務所への訪問

### 5-1 大江川緑地の管理状況について

大江川緑地の管理について現地調査やWEB調査で気になっていた点がいくつかあったので実際に管



理を行っている南土木事務所を訪問しました。そして管理の周期やどのような作業を行っているかなどの質問を行ったところ以下のように答えてくれました。

大江川緑地は造園会社に年間委託を行っているそうです。公園の清掃作業（ごみ拾いなど）は月に3～4回ほど行っているそうです。水景施設の清掃（噴水）および公園の除草作業は年に3回ほど行っているそうです。その他として大江川緑地には大きな花壇があるので草花の枝取り、植え付け、除草および水やりなどは適当なときに行っているそうです。なぜ管理についての質問を行ったのかというと大江川緑地は樹木が多く見た限りでは結構樹木が管理されていないように思えたからです。実際に話を聞いて感じたこととしては管理の周期が意外にもしっかりしていたことでした。でもこの管理の周期で公園の樹木の状況では少し合わないのではないのかと思いました。公園の状況からいくと月に一度というのが妥当なのではないのかと思いました。話を進めていくうちにこの管理は意図的に行っていると言っていました。それは普通の公園とは違い大江川緑地のコンセプトが森だからです。このようにしてこの問題は解決しました。

## 5-2 利用者からの苦情と対策

南土木事務所に寄せられる住民からの苦情は変質者が出没したり全体的に利用者のマナーが悪いという意見が出ました。変質者の問題に関しては話を聞いていくうちに公園にいるホームレスたちも入っているのではないのかと思いました。ホームレスに関しては南土木事務所の方々が毎月直接指導を行っているそうです。しかし一度立ち退いてもまた戻ってくるのが現状であり、これが今できる一番の対策だそうです。

マナー違反に関してはいろいろと意見が出ました。その中でも多かったのが自転車でのスピードの出しすぎという苦情です。園内は散歩やウォーキングで利用する人が多く自転車の通行は非常に危険だと実際に僕たちも調査をして思いました。この問題の対策については園内に自転車が入らないように対策がとられていたり看板も設置してあります。



写真 4 自転車対策

そのほかのマナー違反で多い意見は犬の糞の不始末という問題です。利用者の多くは散歩でその中でも多くの方が犬の散歩も平行して行っているように見えました。

この問題は南土木事務所の方がどうこうできる問題ではなく利用者の個人の意識によって改善される問題であると思います。一応看板も設置してあるのですがやはり利用者の意識の改革によって改善される問題だと思います。公園の照明が暗いという意見が出たのですがこれは決まった数の外灯を設置してあります。コンセプトが[森]ということからこれは仕方がないと思います。総合的に利用者からの苦情というのは個人の意識の足りなさが生んだ問題が多いという結果でした。



写真 5 犬の糞に関する看板

## 6. 現地でのアンケート調査結果、内容

まず最初に、どのようなことを質問、アンケートしたら、自分たちの実習、発表に役立つかを話し合い、最終的にアドバイザー教員の嶋田先生のところに相談しに行き、アンケート、質問内容を決めました。質問要項は、利用目的、利用頻度、不満点、改善して欲しいところ、年代、性別、に決まりました。アンケート目標人数設定は 30 名になりました。

調査に出かけた時間が(主に 13:00~15:50)だったというのもあるのかもしれないが、利用者には、やはり年配の方が多かった。見た感じだと大抵の利用者の方達がペースを守りながらのウォーキングや、ランニング、犬の散歩での公園利用という感じでした。そして実際にアンケート調査を行ってみたところ、このような結果が取れました



## 図1 利用頻度

## 図2 利用目的

これらを見てみると、アンケートを始める前に実際に見て感じ取った自分達の考えとほとんど一致したのが驚きました。ペースを守って走っていたりした方にはよく断られました。目標人数 30 名を目指し、何とか 27 名もの方にご協力してもらうことができました。

不満点、改善して欲しい点での多かったのは、自転車のスピードが速くて危ない、不審者がいる(奇声を上げたり)、犬の糞の始末をしない人がいる、掃除など整備の頻度が少ない気がする、などでした。

しかし、たまたまアンケート調査に行った日は、花壇の植え替えや、除草作業などの掃除、落ち葉の処理が行われていた。しかし、これらの意見を聞き、普段からそれらはあまり行われてはいないということが見えてきた。

そして夜の大江川緑地は危ない気がする。という意見は全員が全員、口を揃えて言っていた唯一の訴えでした。

## 7. まとめ

私たちは今回の調査を行い最初のほうは管理体制に疑問を抱き利用者ではなく管理をしているところに問題があると思い調査を行ってきました。しかし管理局の訪問やアンケートを行い両方の立場になって考えたところ原因は管理局だけではないと言う結論を導き出しました。それを決定付けたのはやはりアンケートでの不満点と住民からの苦情で似ている点が多かったからです。しかし先ほど述べたようにこれを改善するには個人の意識改革が重要です。なぜ看板があり決まりを守らないのでしょうか。今回の報告会を通じてひとりでも多くの方が考え直してくればその行動をみてほかの人にも影響されるのではないかと思います。そしてより大江川緑地が快適に使用できるのではないかと思います。

## 8. 参考文献

エリアレポート <http://www.myecot.com/report/repo0207.html>

名古屋市 <http://www.city.nagoya.jp/ku/minami/machi/meguri/sanpo/nagoya00044759.html>

名古屋を歩こう <http://toppy.net/nagoya/minami6.html>



## 9 . 謝辞

今回の調査にあたり、下記の方々にご協力いただきました。御礼申し上げます。

アドバイザー教員：嶋田教授

南土木事務所呼続文所の皆様

アンケート調査にご協力してくれた皆様

嶋田教授には調査の進め方、アンケート調査のアドバイス、などをしていただきました。

呼続分所の方々には大江川緑地のあり方、管理状況、クレームなどについてお話を伺いました  
アンケートにご協力いただいたの方々、お忙しい中ありがとうございました。

上記、皆様のご協力がありませんでしたら、私たちの調査は成り立たなかったと感じます。感謝の意を込めて、ありがとうございました。

## 10．感想，各自の貢献内容

### 「大江川緑地とは」

C08021 上井戸 真奈

#### 感想：

私たちの班は、大江川緑地の役割について調べた。まず、初めにインターネットを使って大江川緑地について調べてみると、多くの人が散歩やジョギングなどに利用していることが分かり、それを確かめる為に実際に大江川緑地へ調査をしに行った。確かに、散歩をしている人やジョギングをしている人が多くいた。しかし、私たちの班が一番気になったのは、大江川緑地の管理状況だった。大江川緑地には、とても多くの木があり、そのほとんどの木は何の手入れもされていないように伸びきっており、葉なども散って地面に多く落ちていた。そして、空き缶やペットボトルなどのごみが多く落ちていたり、オートバイまで捨てられていた。こんなに多くの人が利用している大江川緑地なのに、どうしてこんなに管理が行き渡っていないのだろうかという疑問を持った私たちの班は、管理について調べることにした。まず、大江川緑地を利用している人に、不満点がないのかアンケート調査で調べてみることにした。すると、大江川緑地に対する不満点は1つも出ず、利用する人のマナーの問題での苦情があった。そして、この大江川緑地を管理している南土木呼続分所にはなしを聞きに行った。管理はしっかりされているという話だったが、この呼続分所の話によると大江川緑地は森として扱っており、あまり人間の手を加えず管理しているという事だった。この話を聞き大江川緑地は、私たちが知っている公園とは違うということが分かった。大江川緑地とは、人々にとって木などの森林が少ない街の唯一の森なんだと思った。だからこそ、利用している人でこの大江川緑地を守っていかねばいけないと思う。一人でも多くの人がマナーを守って利用することが必要であり、それはこの大江川緑地をいつまでも森のまま保っていくことに繋がるのだと思った。

#### 私の貢献内容：

南土木呼続分所へ行き、話を聞きに行ったのと最終報告会では、ポスター作りを担当した。

### 「大江川緑地の今後のあり方」

C08022 木村 薫

#### 感想：

今回の調査は自分の一番身近にある自然の公園を見た目だけではなくより深く中身まで知ることのできる機会でした。公園という大まかなことは高校生のときに学んだことがあり都市公園法や街区や近隣公園などの基準など、公園のことはわかっているのだと思いました。でも今回の調査は実際に現場に立って住民からの目線で公園を見てそして管理している人たちの立場にも立って公園を見るという初めての試みでした。そして教科書とかそんなんじゃわからない公園に関わっている一番近い人たちの思いを知ることができました。

自分たちでアンケートをとったり、管理局に訪問を行ったりして正直初めてのことばかりでした。調査を行っていけば行くほどいろいろなものが見えてきて、そしてそれらのことを改善して行きみんなにもっと安心して大江川緑地を利用してほしいと思うようになりました。公園の問題というのはいろいろあって管理に問題があったり利用者に問題があったりとさまざまでした。結局は管理が行き届いてないからごみがほかってあったり公園の中が汚かたりしているんだと思ってました。でも公園を使っているのは利用者でゴミを出しているのも利用者でその利用者がしっかりしていないから多くの問題が生まれてくるのだとわかりました。個人の意識が足りなくて結局ポイ捨てとかしてしまう。でもポイ捨てした人は誰かが掃除してくれているから大丈夫という甘い考えでいる。それでそのごみの片づけを行っている人たちがいる。というのが今の公園の利用者と管理を行っている側とのお互いの思いであったり現状です。

どの公園を利用するにしろ何か問題があればすぐに苦情をいうのではなく一人一人が直せれるところから直していけば苦情も減りいい環境になります。大江川緑地も今書いたようにしていくことによってよりいい公園になって行くと思うし今環境問題が騒がれている世の中なのでもっといろいろな意味で大事な存在になっていくべきだと思います。

私の貢献内容：この班での調査の中で、私は中間報告会までに資料を集めたりまとめを行ったりしました。中間報告会と最終報告会の資料では主にパワーポイントの作成を行いました。また管理局に訪問する際には質問内容の作成を行いました。

「この班のメンバーとの実習について。」

C08023 清田 悟史

感想：

私たちの班はほとんどの班とは違い、メンバーが4人でした。最初は5人いたほうが、やる事が分散して効率よく行きそうだから、4人は結構なハンディだと思っていました。

しかし、4人でよかった。と今は感じています。そのわけは、4人だと5人よりも1人1人の責任感の持ち方が違ってくるとし、自分もやらなきゃ終わらないし進まない、なにより他のメンバーにすぐ迷惑がかかる。という意識が自然と生まれてきました。他の5人の班でもこの意識は変わらないと思いますが、5人と4人とでは、その意識の持ち方が違ってくると思います。

この実習をやってきて、私は4人という人数がこの実習には最適の人数だと思いました。偶数人数だと2分割にしやすいし、4人という少数人数なら自分の意見も言いやすいし、全員の意見も合わせやすいとも感じました。

結論を言ってしまうと、私たちの班は誰か1人でも欠けていたら、調査、中間発表、最終発表、全てにおいて今のレベルよりも低い、調査内容、完成度、になっていたことでしょう。1人1人の意識の持ちよう、責任感の持ちよう、なにをやるにしても結果と内容は違うものになる。と実感できた実習でした。

そして、大江川緑地そのものについての感想は、9月から12月中ごろまで約3ヶ月ほどの期間、調査を行ってきて、暑い日寒い日通してやり抜きました。暑い時の大江川緑地、寒い時の大江川緑地を

感じました。暑いときは避暑地のように涼しく快適でした、寒いときはそのまま寒かったです、なにか癒されるといふか、これまた快適に感じました。しかし体で感じるだけの快適ではなく、視界に入ってくる場所で感じ取れる、気持ちよさといふか感じのよさ、があまり感じられない公園だと思いました。

身体的には感じのいい気候、空気なので、少しもったいないな、と感じました。

この大江川緑地のあり方、付近住民の方々からの位置づけは、地域の皆様からのアンケートを取ったことである程度見えてきました、今のところはまだ、散歩、犬の散歩、ジョギング、ウォーキング、といった移動の時に通過する、運動をする。このくらいしか見えてきませんでした。なので、もっと居心地のいい公園、地域の皆様の中での位置づけをもっと高いところにおけばもっといい公園になると思います。

普通の公園とは違うタイプの大江川緑地ですが、もっと人が集う、いい公園になれる要素を持った場所だと感じました。

それと、班のメンバーの、  
上井戸さん、木村君、畔柳君、一緒に班で活動できてよかったです。  
ありがとうございました！！

私の貢献内容：

この班での調査の中で、私は主に木村君と分割して通常報告会の発表をしていました。他には、現地調査、アンケート調査を行い、中間報告会、最終報告会では発表担当、レジュメの作成、などを行いました。

「大江川緑地を調べたこと」

C08025 畔柳 圭佑

感想：

私の班では「大江川緑地の役割について」調べるように言われ始めて聞いた名前だったので、どうすればいいのか不安になったが、まず初めにインターネットによる調査を行いました。

その内容は、かつて緑豊かなところであったが歴史が進むにつれて周辺が工業地帯になってしまっていて環境が悪化してしまったと書いてあったが、現地調査を行ったところ環境が悪化していた面影はあまり残っていませんでした。なぜかという、名古屋市と市民の協力により30年前、住宅街と工業地帯を隔てる緩衝緑地として大江川緑地が作られていました。これはいい事だとおもいました。

しかし、インターネットで得られる情報が少なかったため、現地調査を行い自分たち自身でどこが良いか問題点はあるか、住民による不満点はあるかなどと思いそれについて調べることになりました。

まずアドバイザー教員に話を聞きに行き市役所に聞きに行ったり住民にアンケートをとるように言われたのでそれを実行しました。

そして、結果を最終報告会に生かすことができました。

私の貢献内容：この班での調査の中で、私はインターネット調査、現地調査、アンケート調査、写真撮影などをおこないました。